

北大路書房 ニュース

朝日新聞書評掲載！

朝日新聞夕刊大阪本社版（2020年6月30日）および、朝日新聞社の本のサイト「じんぶん堂 powered by 好書好日」にて、『マンガの認知科学』が紹介されました！

視覚表現の多様性 探求 連なる画像 どう物語として認知されるか



評者：雑賀忠宏氏
（京都精華大学国際マンガ研究センター研究員）

……言語の連なりがメッセージとして意味を持つように、私たちは画像の連なりを、いかにしてひとつの「物語（ナラティブ）」として認知し、理解しているのだろうか。そのような根源的な問いについて、本書はマンガあるいはコミック的な表現を事例にしながら探求していく。……「文字」対「ビジュアル」という構図ではなく、「ビジュアルなナラティブ」自体の基本構造を解きほぐしながら、マンガやコミックスから、オーストラリアの先住民族の「砂絵」を介したコミュニケーションまで、その社会における表現の多様性に目を向ける。…このコーン氏の議論は、マンガ的な視覚表現が周縁的なものではなく、日常の様式としてすっかり埋め込まれている私たちにとっても刺激的なものとなるだろう。邦訳を機に日本の読者からどのような反応があるのか、興味は尽きないところだ。（記事より抜粋）

読む／視るとき何が起きる？
紙／電子を越えるリテラシーのために
紀伊國屋書店員さんおすすめの本
（2020年6月29日公開）

ピーター・メンデルサンド『本を読むときに何が起きているのか』とモリー・バング『絵には何が描かれているのか』とあわせて、「ビジュアル・リテラシー」の必読書に選んでいただきました。

評者：野間健司氏
（紀伊國屋書店 書籍・データベース営業部）



夏目房之介氏 推薦！

マンガの認知科学
ビジュアル言語で読み解くその世界
ニール・コーン 著、中澤潤 訳

978-4-7628-3108-9/A5・288頁・4800円+税

私たちはマンガのストーリーをどうやって理解しているのか？ 絵は言語としてどのように働くのか？ マンガを形づくる「ビジュアル言語」の理論を、米国の認知科学者兼コミック作家の著者が提唱。言語学、認知心理学、認知神経科学、比較文化学による検証を通じ、マンガ読解の仕組みのカギとなるビジュアル言語の構造を探る。



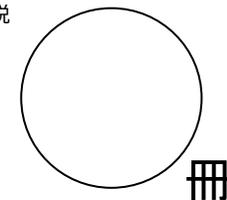
ご注文は → FAX 075-431-9393

貴店番線印

ご担当者様名

返品条件付。
返品了解者名 大出（おおで）

（株）北大路書房
〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
TEL : 075-431-0361 FAX : 075-431-9393
e-mail: eigyo@kitaohji.com
http://www.kitaohji.com



冊

* 店舗名の間違い、FAXがご不要な場合はお知らせ下さい。また、FAXの誤着がございましたら、お手数をお掛けしますがお知らせ下さい。